

寝たきり率の吟味と健康寿命の推移 日本における 1970 年代からの動向

林 玲子

1. はじめに

寿命の伸長によって、不健康な高齢者が増えているのか、そうではなく長く元気に生きられるようになったのか、という点を明らかにするために、健康寿命という概念が提示され、1960年代から世界各国で研究が蓄積されている（Sanders 1964, Sullivan 1971, Katz et al. 1983, Rogers 1989）。日本の平均寿命は世界でも上位に位置し、また健康寿命についても、世界の 187ヶ国を対象とした Global Burden Disease 研究によれば、1990年、2010年に日本は男女とも世界一位となっており（Salomon 2012）、直近の国民生活基礎調査結果を用いて厚労省が公表した 2013年の健康寿命は、寿命の伸びと平行し、2001年から引き続いて伸びている。

わが国は世界で一番高齢者の割合が大きい国であり、4人に1人は65歳以上であり、その割合は今後も増加すると見込まれている。しかし過去を振り返れば 1970年の65歳以上人口割合はわずか7.1%、その値が欧米諸国を越えたのは1990年代以降で、その高齢化のスピードは速かった。同様に今後、アジア、ラテンアメリカでは急速な高齢化の進展が予測されており、日本が短い期間でどのような高齢化対策をとったか、そしていかに世界最長の寿命と健康寿命を維持し続けているかを分析し、負の面も含めて共有することは重要であろう。

日本における健康寿命の研究は、早くは1974年に国民生活審議会調査部会による「社会指標」の中で「平均健康余命」として計算されており、その後数々の研究がなされた（菱沼・曾田 1983; 重松・南条 1984; 小泉 1985; Hayashi 1989; 林・郡司 1989; 林 1990; 郡司・林 1991; 井上・重松・南条 1997; 橋本 1998; 辻 1998; 小泉 1999; 齋藤 1999, 2001; Kondo 2005; Chan et al. 2011; Yong and Saito 2009, 2012; Hashimoto et al. 2010, 2012; Tamakoshi et al. 2010; Seko 2012; 齋藤 2013; 林 2014; 高橋・別府 2014; 別府・高橋 2014, 2015）。これらの研究は、用いられているデータとしては、国民生活基礎調査のような横断調査や、NUJLSOA、JSTAR といった縦断調査、指標としては、疾病や障害の有無、日常生活への影響や動作能力、主観的健康感などが用いられ、期間としては単年のものから、複数年の推移を見ているものなどがある。日本の著しく早い高齢化に従った健康寿命の推移をみるためには、ある程度の長期間にわたって観察する必要があるが、既存の時系列の推移を追った研究としては、1986年から2004年の主観的健康感について（Yong and Saito 2009）、1995年から2004年の「健康上の理由による日常生活の影響」について（Hashimoto et al. 2012）がある。また林（2014）は、さらに長期に、1970年代から2010年に至る期間の「寝たきり率」等を使った健康寿命の推移を分析した。

林（2014）は、国民生活基礎調査と、その前身である国民健康調査、厚生行政基礎調査

の公表データを用いたが、年齢区分が調査年によって異なり、最終年齢区分が低い年齢の調査年も少なからずあった。そこで、一律、かつある程度高年齢までの年齢区分で分析することを目的に、本研究プロジェクト「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究（平成 26～28 年度）」で統計法第 32 条に基づき厚生行政基礎調査および国民生活基礎調査の調査票情報の二次利用申請を行い、厚生労働省大臣官房統計情報部より提供を受け、分析を行った。

2. 寝たきり率について

a. 「寝たきり」概念のはじまり～1968 年「居宅ねたきり老人実態調査」の結果から

1960 年代高度経済成長のさなか、国民皆保険体制が 1961 年に確立し、老人福祉法が 1963 年に制定され、人口高齢化に対する関心が高まっていた中で、1968 年に「居宅ねたきり老人実態調査」が行われた。この調査は、全国社会福祉協議会により実施され、全国 13 万人の民生委員が担当地区内の 70 歳以上の高齢者のいる世帯を訪問し、寝たきりの状態を本人もしくは家族・介護者に面接質問したものである。調査された寝たきり者数は男性 78,404 名、女性 112,948 名の計 191,352 名であり、寝たきりの「発生率」は 5.2%とされた¹。集計表が届かなかった山形県と北九州市、および都市部におけるある程度の調査漏れを勘案し、全国の 70 歳以上の寝たきり者数は 20 万人を超えると推計している（全国社会福祉協議会 1968）。

この調査では、寝たきり者本人の性別、年齢、家族構成といった基本属性と、寝ている理由、寝たきりの期間、また「便所にゆくことができるか」、寝たきり者のいる世帯の生計中心者の職業・就業形態、介護者の状況、医者にみせているかどうか、家族以外の話し相手の有無について聞いている。寝たきり者の生活の自立の状況は、「便所にゆくことができるか」という質問項目のみで、入浴、着衣、食事などについては聞かれていないが、その結果をみると、自分で便所にいけるは 30.8%、「自分で便器」は 14.2%となっており、自分で用を足せる人は 45%弱にすぎない、と報告書で強調されているが、逆にいえば寝たきりでも半分は自分で用を足せる、という状態であったことがわかる。またこの調査時点では、1 人暮らしの寝たきり老人は 2.7%と低いこともあり、家庭内の介護者がいない場合の状況を示す集計表は、わずかに話し相手に関する表にとどまるが、1 人暮らし寝たきり者の 25.7%は、話し相手がいないとされており、総数の 0.7%に相当する寝たきり者が、まったく介護を受けていない状況であるとも考えられる。

1968 年頃では、寝たきりといっても、かなりその生活の自立の状況に幅があることをうかがわせる。また、報告書では、民生委員が 70 歳以上の高齢者をどのような基準で寝たきりかどうかを判定しているかについては説明されておらず、調査の手引きや連絡事項で定

¹ 報告書では、直近 1965 年の国勢調査の 70 歳以上の人口を分母とし、発生率が計算されていると思われるが、1968 年の総務省統計局による推計人口を分母として用いた場合は 4.7%となる。

義していたのかもしれないが、ある程度社会通念として「ねたきり老人」といえば通じてしまう状況であり、「ねたきり老人」の状況を詳しく分類する状況にまだなかったのではないかとと思われる。

b. 寝たきり調査項目の変容

政府統計において、寝たきりかどうかは聞かれているのは、1978年（昭和53年）の厚生行政基礎調査がはじめてであったようである。これに先立って、国民健康調査では1974年に「就床状況」に関する質問項目が追加されており、調査3日間における就床状況と、過去1年間の就床状況が聞かれており、後者の方は、高齢の寝たきり者も念頭にいった質問項目であったと思われる。しかしその選択肢が「全く床につかなかった」、「1日～10日程度床についた」、「11日～30日程度床についた」、「31日以上床についた」の4種類であり、長期の就床というよりは、疾病によりどのくらい就業・学業などに影響があったかを測る設問であったとも考えられ、今回の分析対象とはしなかった。

1978年の厚生行政基礎調査では、「ねたきり者の状況」として2つの質問が設けられている。「介助の種類」の質問には入浴・屋内移動・着衣・排便・食事の5選択肢、「ねたきりの期間」の質問には1か月未満、1～3ヶ月未満、3～6ヶ月未満、6か月～1年未満、1年以上の5選択肢が設定されている。「未就学児を除くねたきり者のみ記入」、とあり、明確な年齢区分はこの調査年には導入されていないものの、対象としては高齢者および身体障害者を対象としていることが伺われる。次にねたきり者の状況が聞かれたのが1981年の厚生行政基礎調査で、6歳以上のねたきり者、と年齢区分が入ったが、質問・選択肢は同じである。ところが、1984年の厚生行政基礎調査で、介護の要否、介護者、ねたきりになった原因に関する質問項目が導入された。この時点では、ねたきり者に対して、介護の要否を聞いているので、ねたきりでも介護が不要、という状態を想定していることになる。また、それまでの「介助」という用語が「介護」となった。

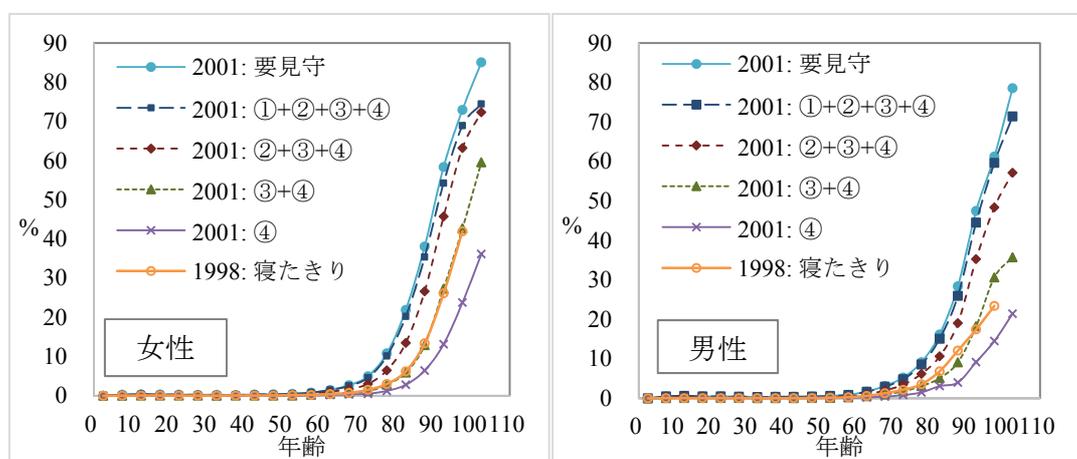
次にねたきりに関して聞かれたのが、国民生活基礎調査となった1986年調査である。このときは、6歳以上の世帯員について、介護の要否を聞いた後で、ねたきりかどうかを聞いており、その後の調査でも同様な誘導方式となっている。

つまり、当初は「ねたきり」という言葉で一様に表現されていた、生活の多くを床について自立できない状態が、その後少しずつ、介護の状況に応じて細分化されてきた過程が認められる。しかしその過程には、若干の混乱も伴っていたようである。つまり、1984年には、寝たきり者のうち介護が不要な人が27.9%を占めていたが、1986年ではそのような人は数字として表れず、逆に介護が必要な人のうち寝たきりではない人は26.3%となった。以降、要介護と寝たきりの値は乖離していき、介護保険制度の実施以降の最初の大規模調査である2001年の国民生活基礎調査から、寝たきりという用語は消え、代わりに4選択肢で表される「日常生活の自立の状況」に取って代わられることとなった。

c. 「寝たきり」と「日常生活の自立の状況」との関係

2001 年国民生活基礎調査より導入された「日常生活の自立の状況」は、①何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出できる、②屋内での生活はおおむね自立しているが、介助なしには外出できない、③屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ、④1 日中ベッド上で過ごし、排せつ、食事、着替において介助を要する、の 4 つの選択肢がある。この 4 つの水準が、寝たきりとどう呼応するのか、1998 年の寝たきり率と 2001 年の日常生活の自立の状況 4 項目の累積の率を年齢別に比較したものが図 1 である。

図 1 寝たきり率と日常生活の自立の状況の比較



1998 年の寝たきり率は、2001 年の③+④に近く、特に女性では両者の値が非常に近似している。③、④の文章の内容から考えても、この二つが寝たきりという事象に応じたものであるとみなすことができよう。そこで本稿では、2001 年以降の寝たきり率を、日常生活の自立の状況の③と④を足したものとした。

3. 非寝たきり寿命の算出および介護不要寿命との比較

寝たきり率の算定には、1978、1981、1984 年の厚生行政基礎調査における寝たきりの項目、国民生活基礎調査の 1986 年から 1998 年までの寝たきりの項目、2001 年から 2013 年までは国民生活基礎調査の「日常生活の自立の状況」のうち「③屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ」と「④1 日中ベッド上で過ごし、排せつ、食事、着替において介助を要する」を合計したものを寝たきりとみなし、それぞれを用いて寝たきり率を算出した。

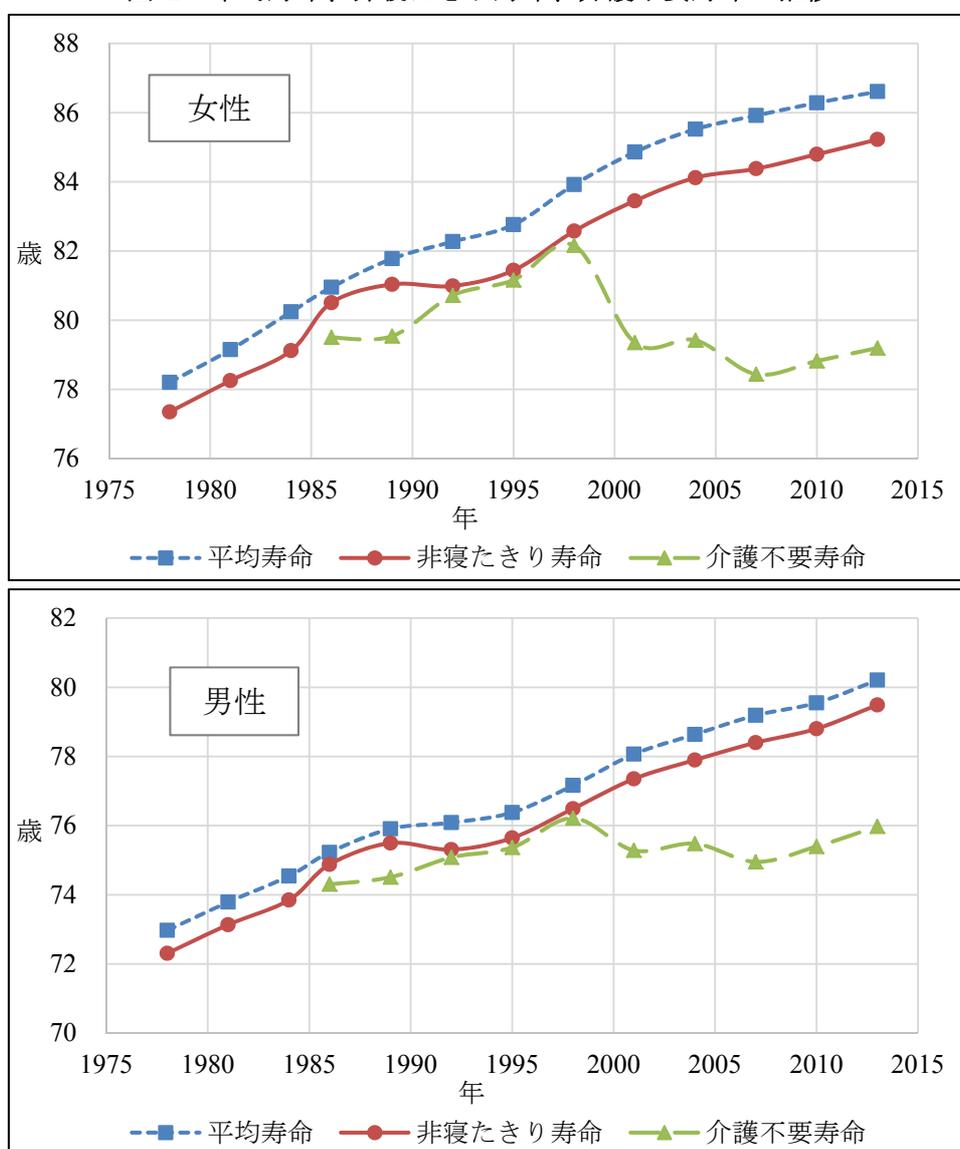
また、要介護率として、国民生活基礎調査 1986 年から 1998 年までは介護の要否、2001 年から 2013 年までは国民生活基礎調査の手助けや見守りの要否の項目を用いて算出した。1984 年は厚生行政基礎調査で介護の要否を聞いているが、寝たきりの人についてのみ聞いて

ているので、ここでは比較対象としなかった。また「要介護率」といっても、ここでは要介護認定を取った人の割合を示すものではないことに留意する必要がある。

年齢別の寝たきり率、要介護率を使い、Sullivan法により、寝たきり期間・非寝たきり寿命および要介護期間・介護不要寿命を算出した。用いた生命表関数 L_x は日本版死亡データベースによるものを用いた。日本版死亡データベースは、国際的な死亡データベースである Human Mortality Database と整合性を持ち、わが国の生命表を死亡研究に最適化して再編成した死亡データベースであるが、高年齢における年齢区分が過去に至るまで 110 歳以上階級まで同様に得られること、および男女合計の L_x が得られる、といった利点がある。

これらの算出結果を、付表 1~7 に示し、平均寿命、非寝たきり寿命、介護不要寿命を男女別に図 2 に示す。

図 2 平均寿命、非寝たきり寿命、介護不要寿命の推移



男女とも、1986、1989 年を除くと、寝たきり期間は一定で、平均寿命の伸びに平行して非寝たきり寿命も伸びている。1986、1989 年については前述した寝たきりと介護の定義の変化に伴うものである可能性もあるが、今後の検討も必要となろう。一方介護不要寿命は2000年以降減少もしくは停滞しており、非寝たきり寿命の動向とは全く異なるものである。2000年より実施された介護保険制度により、介護の需要がつけられ、満たされたことによる可能性もある。同様のことは、医療保険制度拡大の際にも有病率の増大という形で現れていた。しかしこの介護不要寿命も2007年からは伸長に転じており、今後の動向が注目される。

4. 施設入居者の補正

国民生活基礎調査は、国勢調査区の後置番号1および8、つまり、一般世帯、寄宿舍・寮がある区域から層化無作為抽出した地区を対象としている。この中には、後置番号4である、社会施設・病院（患者200人以上収容）は含まれていない。高齢になって、生活の自立度が下がれば、介護施設に入所することが多くなることを考えれば、寝たきり率の算定のためには施設入所者の動向を考慮することが重要である。国勢調査における後置番号別の人口は公表されていないが、世帯の種類別人口は一般世帯、施設等の世帯別に公表されている。特に65歳以上人口について1970年から2010年までの推移をみると（表1）、実数では1970年に20万人であったのが、2010年には167万人と約8倍に増加し、割合では1970年に2.8%であったのが、2010年では5.7%と2倍程度に増加している。また85歳以上では2010年で21.7%を占めており、超高齢者の施設入所率は無視できないレベルになっている。

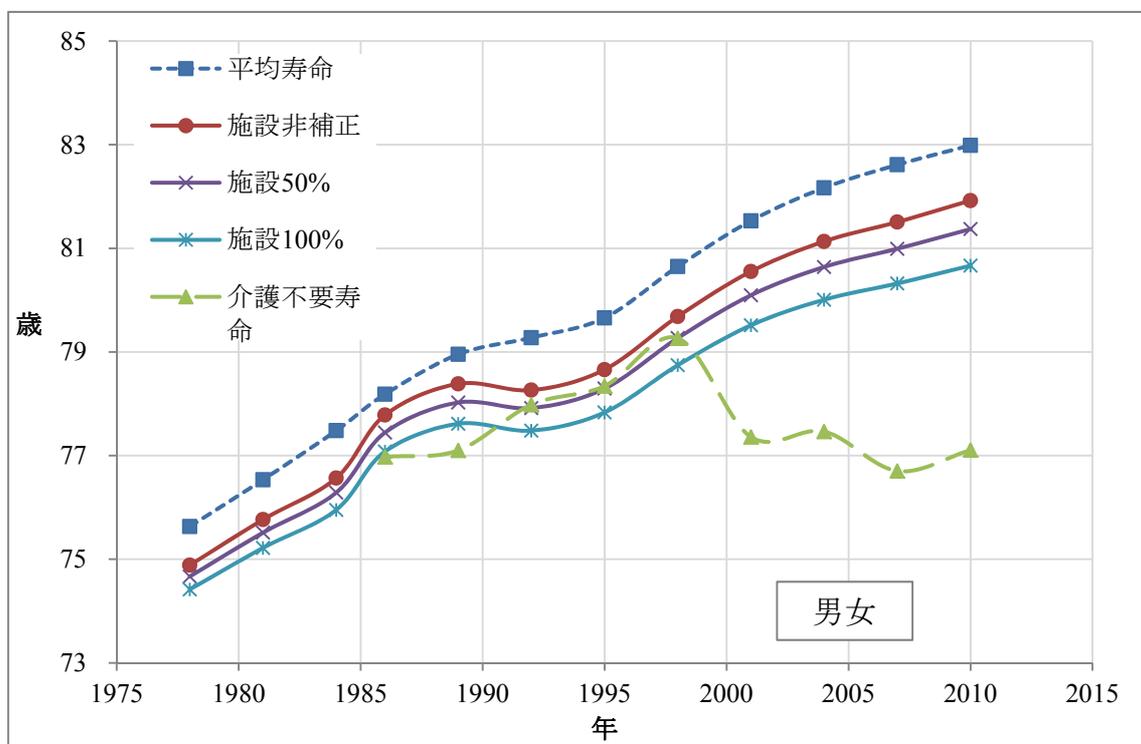
表1 施設等の世帯人員数および総人口に対する割合（国勢調査）

		1970	1980	1990	2000	2010
実数	65～69歳	71,245	73,167	83,228	106,279	114,600
	70～74歳	57,055	93,545	103,263	129,007	146,923
	75～79歳	40,080	97,390	144,170	171,290	232,494
	80～84歳	23,005	72,312	152,488	214,216	349,052
	85歳以上	11,225	44,459	156,957	403,199	824,792
	(再掲) 65歳以上	202,610	380,873	640,106	1,023,991	1,667,861
割合	65～69歳	1.9%	1.8%	1.6%	1.5%	1.4%
	70～74歳	2.2%	3.1%	2.7%	2.2%	2.1%
	75～79歳	2.7%	4.8%	4.8%	4.1%	3.9%
	80～84歳	3.2%	6.6%	8.3%	8.2%	8.0%
	85歳以上	3.5%	8.4%	14.0%	18.0%	21.7%
	(再掲) 65歳以上	2.8%	3.6%	4.3%	4.6%	5.7%

注：1970年は、準世帯の人員数

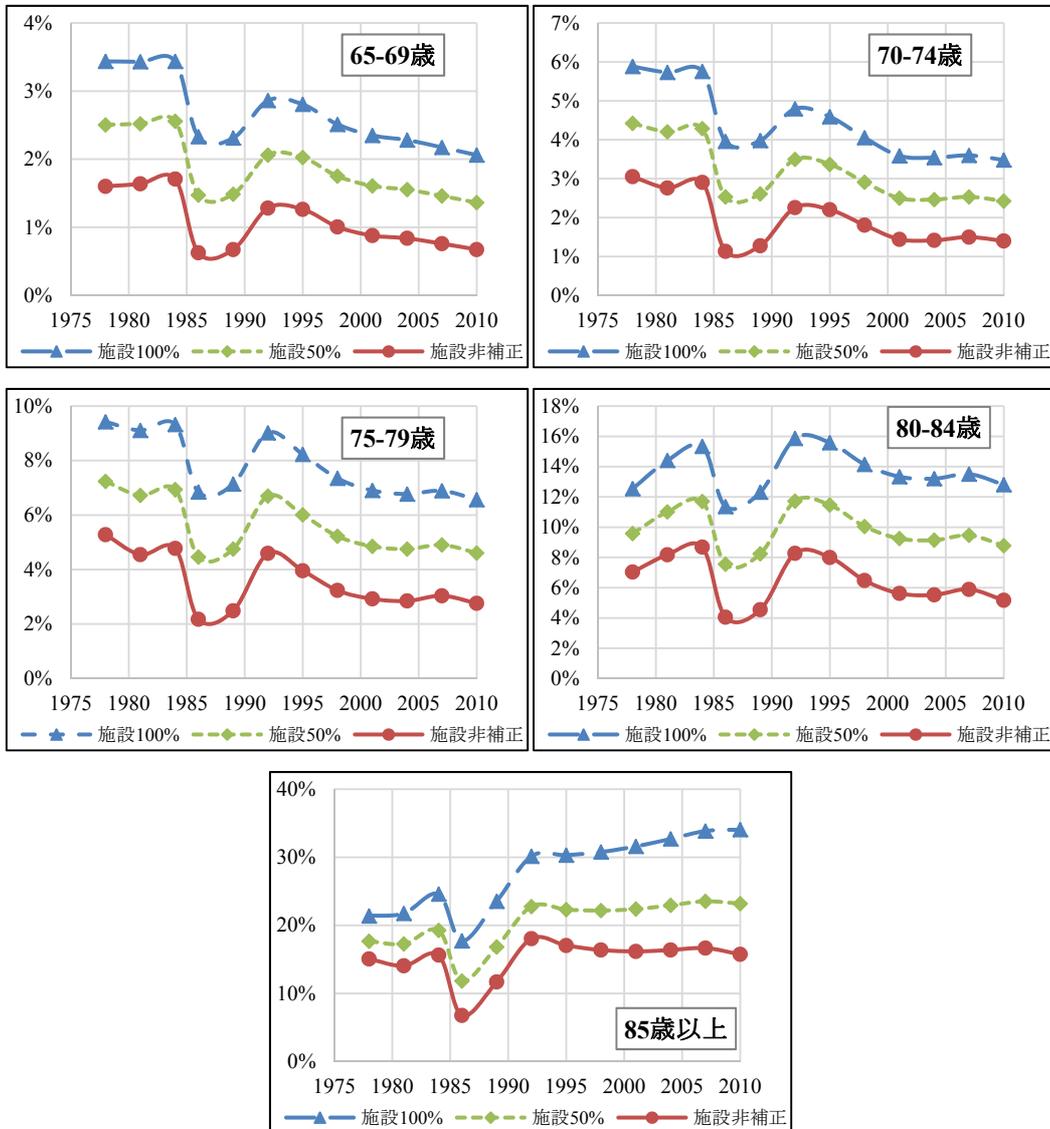
後置番号4の人口と、施設等の世帯人口との対応については今後精査する必要があるが、高齢者施設にも様々な種類があり、施設入所者の寝たきり率や生活の自立の状態は未だ不明の点が多い。したがって、ここでは単純に、施設入所者がすべて寝たきり（図中「施設100%」）、50%寝たきり（図中「施設50%」）と設定し、それら2ケースについて非寝たきり寿命を補正計算し、補正前の非寝たきり寿命、介護不要寿命と比較した。図3に示すように、施設入所者がすべて寝たきりと仮定した場合でも、若干の寝たきり期間の増加は認められるが、平均寿命と平行した非寝たきり寿命の伸長は否定されるものではない。

図3 施設入所割合で補正した平均寿命、非寝たきり寿命、介護不要寿命の推移



年齢別の寝たきり率の推移を、非補正、施設入所者が半分寝たきり、すべて寝たきりの3ケースで見ると、85歳未満の年齢層においては、1986、1989年を除いては、低下の傾向にあり、施設入所割合で補正した場合も同様である。一方、85歳以上の年齢層では、施設入所を補正しない率で見るとやや減少しているが、施設入所者の寝たきり率を50%と設定した場合はやや増加、施設入所者がすべて寝たきりと設定した場合は明らかな増加が認められる。85歳以上の中で、90歳以上や100歳以上といった超高齢の年齢層の割合が増えていることがその主要な理由だと思われるが、全年齢での標本調査では、このような超高齢者の標本数が少なくなるので、さらなる分析は難しい。いずれにせよ、施設居住者の自立状況は別途把握する必要がある。

図 4 施設入居割合で補正した年齢別寝たきり率の推移



5. まとめと今後の課題

「寝たきり」は、1960年代から非自立高齢者を表す概念として使われていたが、社会の高齢化の進展とともに、介護の有無と合わせて細分化され、21世紀に入り統計で用いられることがなくなった。人口長寿化とともに、年齢別寝たきり率は低下し、平均寿命の進展と並行して非寝たきり寿命は進展している。

逆に言えば、高齢化が初期の進んでいない時代、もしくは社会でも、一定数の寝たきり高齢者がいることを示している。2009年にインド・デリーで行った調査では、デリー人口の4%に当たる10万人は寝たきりであるとされ (Agewell Foundation 2009)、新興国において、無視できないほどの寝たきり高齢者がすでに存在している状況は、日本の過去の状況

と呼応している。日本の経験を元に、各国の高齢化の進展度に応じた政策対応を提言することも可能だろう。

本分析においては、施設入所者の数および生活の状況を単純な仮定に基づいて補正計算したが、国民生活基礎調査で調査対象外となっている高齢者数がどの程度であるのか正しく把握し、より正確な全人口における寝たきり率・数を算定する必要がある。寝たきり率が年齢別にみると85歳未満では低下していることから、日本の高齢者はより元気になっているとはいえるが、高齢化の進展に伴って、高齢人口のさらなる高齢化が進み、高齢者の中でも85歳以上人口は今後も増大し、その影響で寝たきり人口の絶対数は増えていくことが予想される。さらに85歳以上人口を細分化してみれば、寝たきり率は低下していくのかどうか、超高齢者に特化した研究が求められよう。

地域包括ケアシステムが推進されるなか、身体状況に応じて、病院、施設と自宅の間で行き来しながら、よりよい生活を営むことができる仕組みをうまく作る必要がある。寝たきりとは、一番手厚い介護が必要となる段階であり、そこに至るまでの過程を明らかにし、制度構築に資する適切な情報基盤を構築するべきであろう。

文献

- 井上俊孝、重松峻夫、南条善治 (1997) 日本の 1990 年健康生命表・世界最長寿命の質の検討 民族衛生第 63 巻第 4 号 pp.226-240.
- 郡司篤晃、林玲子 (1991) 質を考慮した健康指標とその活用第 43 回日本人口学会報告資料
- 小泉明 (1985) 『人口と寿命』東京大学出版会.
- 小泉明 (1999) 「巻頭言「健康余命」の特集に寄せて」厚生指標 46(4) (715).
- 国民生活審議会調査部会編 (1974) 『社会指標 - よりよい暮らしへの物さし』.
- 国立社会保障・人口問題研究所 日本版死亡データベース <http://www.ipss.go.jp/p-toukei/JMD>.
- 齋藤安彦 (2001) 「健康状態別余命の年次推移：1992 年・1995 年・1998 年」人口問題研究、vol.57-4, pp.31-50.
- 齋藤安彦 (1999) 『健康状態別余命』日本大学人口研究所 研究報告シリーズ No.8.
- 齋藤安彦 (2013) 「健康状態別余命の概念および最近の研究の動向」老年歯学第 27 巻第 4 号.
- 重松峻夫、南条善治 (1984) 「健康生命表作成について」日本人口学会九州部会報告要旨、福岡市.
- 全国社会福祉協議会 (1968) 『居宅ねたきり老人実態調査報告書』全国社会福祉協議会.
- 高橋重郷、別府志海 (2014) 「人口高齢化と健康・長寿社会」『統計』第 65 巻第 8 号, pp.44-47.
- 辻一郎 (1998) 『健康寿命』麦秋社.
- 橋本修二 (1998) 『保健医療福祉に関する地域指標の総合的開発と応用に関する研究』平成 9 年度厚生科学研究費補助金 (統計情報高度利用総合研究事業) 報告書.
- 林玲子 (2014) 「日本における健康寿命の推移」厚生労働科学研究費補助金『グローバルエージングへの国境なき挑戦- 経験の共有と尊重を支える日本発学際ネットワークによる提言に関する研究』平成 25 年度総括・分担報告書, pp.24-35.
- 林玲子、郡司篤晃 (1989) 「健康寿命の計算-日本における平均寿命伸張の質的評価」第 54 回日本民族衛生学会総会講演集、Vol.55 Nov.1989, pp.148-149.
- 菱沼従尹、曾田長宗 (1983) 「健康度の考え方をとり入れた生命表作成方法に関する研究」、 「新旧生命表の比較による問題点の究明」『ライフスパン』 Vol.3.

- 別府志海・高橋重郷 (2014) 「日本の傷病別平均受療期間の推定」『わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究 (第3報告)』(所内研究報告 第46号), 国立社会保障・人口問題研究所, pp. 35-62.
- 別府志海・高橋重郷 (2015) 「疾病構造と平均健康期間・平均受療期間の人口学的分析—疾病構造別にみたライフスパン—」『人口問題研究』第71巻第1号.
- Agewell Foundation (2009) *Bedridden patients of Delhi & NCR*, <http://www.agewellfoundation.org/pdf/reports/Study%20of%20Bedridden%20%20Older%20Patients%20-%20Delhi%20&%20NCR.pdf> (accessed on 2 March 2015)
- Chan, Angelique, Zachary Zimmer and Yasuhiko Saito (2011) “Gender Differentials in Disability and Mortality Transitions: The Case of Older Adults in Japan” *Journal of Aging and Health* 23 (8) pp.1285–1308
- Hashimoto, Shuji et al. (2010) “Trends in Disability-Free Life Expectancy in Japan, 1995–2004” *Journal of Epidemiology* 20 (4) , pp.308-312
- Hashimoto, Shuji et al. (2012) “Gains in Disability-Free Life Expectancy From Elimination of Diseases and Injuries in Japan” *Journal of Epidemiology* 22 (3) , pp.199-204
- Katz, Sidney et al. (1983) “Active Life Expectancy” *New England Journal of Medicine*, 309 pp.1218-1224
- Kondo, Naoki et al. (2005) “Factors Explaining Disability-free Life Expectancy in Japan: the Proportion of Older Workers, Self-reported Health Status, and the Number of Public Health Nurses” *Journal of Epidemiology* 20 (4) , pp.308-312
- Rogers, Andrei, Richard G. Rogers, Laurence G.Branch (1989) “A Multistate Analysis of Active Life Expectancy” *Public Health reports*, vol.104 (3) pp.222-226
- Salomon, Joshua A et al. (2012) “Healthy life expectancy for 187 countries, 1990—2010: a systematic analysis for the Global Burden Disease Study 2010” *The Lancet*, Volume 380, Issue 9859, pp. 2144 - 2162
- Sanders, Barkev S. (1964) “Measuring community health levels”, *American Journal of Public Health*, vol.54, no.7, pp.1063-1070
- Seko, Rumi et al. (2012) “Trends in Life Expectancy With Care Needs Based on Long-term Care Insurance Data in Japan” *Journal of Epidemiology* 22 (3) , pp.238-243
- Sullivan, Daniel F. (1971) “A single index of mortality and morbidity” *HSMHA Health Report* 86:347-354
- Tamakoshi, Akiko et al. (2010) “Impact of Smoking and Other Lifestyle Factors on Life Expectancy among Japanese: Findings from the Japan Collaborative Cohort (JACC) Study” *Journal of Epidemiology* 20 (5) , pp.370-376
- Yong, Vanessa and Yasuhiko Saito (2009) “Trends in healthy life expectancy in Japan: 1986 – 2004” *Demographic Research*, Volume 20, Article 19, pp. 467-494
- Yong, Vanessa and Yasuhiko Saito (2012) “Are There Education Differentials in Disability and Mortality Transitions and Active Life Expectancy Among Japanese Older Adults? Findings From a 10-Year Prospective Cohort Study” *The Journals of Gerontology, Series B: Psychological Sciences and Social Sciences*, 67 (3) , pp.343–353

付表-1 寝たきり率 (男性)

%	S53	S56	S59	S61	H1	H4	H7	H10	H13	H16	H19	H22	H25
	1978	1981	1984	1986	1989	1992	1995	1998	2001	2004	2007	2010	2013
0~4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5~9	0.05	0.08	0.07	0.02	0.02	0.02	0.11	0.06	0.05	0.08	0.09	0.08	0.14
10~14	0.07	0.07	0.05	0.01	0.03	0.04	0.09	0.06	0.11	0.05	0.04	0.12	0.08
15~19	0.09	0.05	0.07	0.02	0.03	0.04	0.10	0.06	0.10	0.08	0.08	0.13	0.14
20~24	0.07	0.09	0.12	0.03	0.03	0.04	0.07	0.06	0.08	0.08	0.14	0.14	0.15
25~29	0.06	0.14	0.10	0.02	0.03	0.12	0.10	0.06	0.08	0.05	0.11	0.19	0.08
30~34	0.12	0.10	0.12	0.02	0.04	0.04	0.04	0.05	0.05	0.08	0.06	0.08	0.14
35~39	0.08	0.12	0.13	0.03	0.03	0.09	0.05	0.05	0.05	0.04	0.08	0.05	0.08
40~44	0.14	0.23	0.14	0.05	0.05	0.09	0.12	0.06	0.07	0.08	0.11	0.08	0.07
45~49	0.19	0.19	0.33	0.04	0.06	0.10	0.09	0.09	0.10	0.12	0.10	0.13	0.15
50~54	0.37	0.30	0.39	0.16	0.13	0.25	0.19	0.16	0.11	0.11	0.15	0.15	0.23
55~59	0.60	0.40	0.69	0.22	0.21	0.49	0.40	0.28	0.24	0.26	0.27	0.24	0.21
60~64	1.07	0.87	1.08	0.41	0.50	0.97	0.77	0.63	0.53	0.42	0.43	0.47	0.39
65~69	1.92	2.35	2.17	0.89	0.82	1.51	1.55	1.30	0.98	1.01	0.85	0.75	0.85
70~74	3.33	3.35	3.16	1.68	1.64	3.05	2.58	2.16	1.76	1.77	1.69	1.75	1.51
75~79	5.43	4.55	4.39	2.78	2.63	5.38	4.78	3.58	3.10	3.38	3.35	3.27	2.58
80~84	6.75	8.92	8.64	4.78	4.59	8.12	7.09	6.85	5.12	5.64	5.66	5.35	5.39
85~89	12.58	9.21	10.43	5.24	7.53	13.75	12.06	12.08	9.12	10.82	10.31	9.10	8.79
90~94	18.84	15.15	18.60	7.25	15.05	19.15	18.91	17.46	18.25	19.14	16.70	16.92	15.29
95~99	16.67	0.00	5.56	6.02	29.63	28.28	30.97	23.42	30.65	21.74	26.78	29.27	22.53
100+									35.71	52.00	23.08	33.33	35.48

付表-2 寝たきり率 (女性)

%	S53	S56	S59	S61	H1	H4	H7	H10	H13	H16	H19	H22	H25
	1978	1981	1984	1986	1989	1992	1995	1998	2001	2004	2007	2010	2013
0~4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5~9	0.01	0.06	0.07	0.02	0.01	0.03	0.12	0.03	0.02	0.11	0.08	0.10	0.08
10~14	0.02	0.03	0.10	0.02	0.02	0.03	0.11	0.06	0.05	0.05	0.12	0.15	0.11
15~19	0.06	0.05	0.11	0.02	0.04	0.04	0.06	0.07	0.07	0.09	0.05	0.08	0.10
20~24	0.09	0.12	0.08	0.00	0.02	0.04	0.07	0.05	0.07	0.05	0.08	0.18	0.15
25~29	0.07	0.10	0.07	0.00	0.03	0.05	0.05	0.03	0.04	0.05	0.09	0.12	0.10
30~34	0.03	0.08	0.13	0.02	0.05	0.09	0.07	0.04	0.02	0.05	0.04	0.07	0.11
35~39	0.07	0.09	0.08	0.02	0.02	0.06	0.05	0.06	0.05	0.04	0.03	0.07	0.11
40~44	0.10	0.09	0.16	0.03	0.03	0.09	0.07	0.05	0.06	0.06	0.08	0.05	0.11
45~49	0.15	0.14	0.16	0.05	0.05	0.10	0.13	0.07	0.06	0.06	0.13	0.11	0.13
50~54	0.18	0.24	0.27	0.06	0.07	0.24	0.15	0.15	0.06	0.14	0.14	0.16	0.17
55~59	0.49	0.30	0.45	0.15	0.15	0.41	0.44	0.22	0.24	0.16	0.25	0.22	0.21
60~64	0.58	0.59	0.81	0.25	0.28	0.61	0.55	0.41	0.45	0.31	0.35	0.34	0.37
65~69	1.35	1.08	1.34	0.44	0.57	1.10	1.01	0.73	0.79	0.69	0.67	0.61	0.64
70~74	2.82	2.26	2.72	0.72	1.01	1.72	1.93	1.52	1.17	1.12	1.34	1.09	0.96
75~79	5.17	4.55	5.06	1.75	2.39	4.06	3.40	3.01	2.80	2.44	2.80	2.36	2.20
80~84	7.21	7.72	8.71	3.58	4.51	8.35	8.55	6.25	5.92	5.46	6.04	5.05	4.87
85~89	13.79	13.81	16.87	5.94	10.69	15.12	14.79	13.42	12.94	12.52	12.66	11.62	10.83
90~94	20.63	21.30	17.33	10.65	17.89	27.28	26.01	26.15	27.31	24.87	25.13	24.29	22.15
95~99	25.93	35.00	36.84	13.95	27.59	43.33	39.12	41.95	42.70	39.36	42.80	44.36	35.96
100+									59.57	47.92	55.22	51.76	57.38

付表-3 寝たきり率 (男女)

%	S53	S56	S59	S61	H1	H4	H7	H10	H13	H16	H19	H22	H25
	1978	1981	1984	1986	1989	1992	1995	1998	2001	2004	2007	2010	2013
0~4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5~9	0.03	0.07	0.07	0.02	0.01	0.02	0.12	0.05	0.04	0.09	0.09	0.09	0.11
10~14	0.04	0.05	0.07	0.02	0.03	0.04	0.10	0.06	0.08	0.05	0.08	0.14	0.09
15~19	0.07	0.05	0.09	0.02	0.04	0.04	0.08	0.06	0.08	0.08	0.06	0.11	0.12
20~24	0.08	0.11	0.10	0.02	0.03	0.04	0.07	0.05	0.07	0.06	0.11	0.16	0.15
25~29	0.06	0.12	0.08	0.01	0.03	0.08	0.08	0.04	0.06	0.05	0.10	0.15	0.09
30~34	0.08	0.09	0.13	0.02	0.05	0.07	0.06	0.05	0.03	0.06	0.05	0.08	0.13
35~39	0.08	0.10	0.10	0.03	0.03	0.07	0.05	0.05	0.05	0.04	0.06	0.06	0.09
40~44	0.12	0.16	0.15	0.04	0.04	0.09	0.09	0.05	0.06	0.07	0.09	0.06	0.09
45~49	0.17	0.17	0.25	0.05	0.05	0.10	0.11	0.08	0.08	0.09	0.12	0.12	0.14
50~54	0.27	0.27	0.33	0.11	0.10	0.24	0.17	0.16	0.08	0.12	0.15	0.15	0.20
55~59	0.54	0.35	0.57	0.18	0.18	0.45	0.42	0.25	0.24	0.21	0.26	0.23	0.21
60~64	0.80	0.71	0.92	0.33	0.38	0.78	0.65	0.51	0.49	0.37	0.39	0.40	0.38
65~69	1.60	1.64	1.71	0.63	0.67	1.28	1.26	1.01	0.88	0.84	0.76	0.67	0.74
70~74	3.05	2.76	2.91	1.13	1.28	2.26	2.20	1.81	1.44	1.42	1.50	1.40	1.22
75~79	5.28	4.55	4.78	2.18	2.49	4.59	3.96	3.23	2.92	2.85	3.04	2.76	2.37
80~84	7.03	8.18	8.68	4.05	4.54	8.27	8.00	6.48	5.62	5.53	5.89	5.17	5.08
85~89	13.41	12.06	14.55	5.68	9.57	14.64	13.86	12.96	11.62	11.95	11.89	10.77	10.10
90~94	20.16	19.57	17.68	9.64	16.99	24.83	23.72	23.52	24.51	23.24	22.74	22.28	20.24
95~99	24.24	31.11	26.79	11.74	28.32	38.94	36.86	37.27	39.68	35.36	38.81	40.90	33.02
100+									54.10	49.32	50.00	48.11	52.94

付表-4 要介護率(男性)

%	S53	S56	S59	S61	H1	H4	H7	H10	H13	H16	H19	H22	H25
	1978	1981	1984	1986	1989	1992	1995	1998	2001	2004	2007	2010	2013
0~4				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5~9				0.08	0.14	0.13	0.23	0.23	0.50	0.61	1.30	1.67	1.46
10~14				0.08	0.13	0.16	0.22	0.26	0.64	0.57	1.40	1.42	1.68
15~19				0.07	0.13	0.15	0.17	0.15	0.49	0.53	1.78	1.18	1.52
20~24				0.09	0.10	0.12	0.20	0.22	0.51	0.45	2.36	1.44	1.60
25~29				0.09	0.12	0.19	0.20	0.16	0.43	0.43	2.35	1.06	1.32
30~34				0.09	0.09	0.10	0.09	0.13	0.35	0.49	1.82	1.07	1.34
35~39				0.09	0.11	0.15	0.12	0.13	0.40	0.37	1.61	1.09	1.12
40~44				0.10	0.12	0.17	0.20	0.12	0.42	0.45	1.50	1.11	1.10
45~49				0.11	0.17	0.23	0.18	0.15	0.47	0.44	1.35	1.25	1.10
50~54				0.34	0.40	0.43	0.36	0.31	0.62	0.62	1.45	1.59	1.53
55~59				0.44	0.56	0.80	0.72	0.47	0.89	0.94	1.90	2.02	1.87
60~64				0.67	1.15	1.39	1.22	1.01	1.72	1.74	2.87	2.95	2.70
65~69				1.46	1.92	2.09	2.07	1.91	3.14	3.48	4.35	4.59	4.50
70~74				2.46	3.49	3.83	3.46	2.89	5.28	6.01	7.64	7.93	7.13
75~79				4.25	5.28	6.47	6.13	4.73	9.16	10.54	12.28	13.15	12.00
80~84				7.16	8.36	9.80	9.70	8.81	16.20	18.57	21.39	21.77	22.55
85~89				9.42	13.98	15.84	14.87	15.13	28.40	32.72	35.86	35.00	36.03
90~94				13.29	25.00	21.92	24.20	21.49	47.51	51.24	50.27	54.46	53.61
95~99				20.48	43.24	30.30	36.28	31.53	61.29	63.77	69.87	73.17	68.38
100+									78.57	92.00	61.54	76.19	80.65

付表-5 要介護率(女性)

%	S53	S56	S59	S61	H1	H4	H7	H10	H13	H16	H19	H22	H25
	1978	1981	1984	1986	1989	1992	1995	1998	2001	2004	2007	2010	2013
0~4				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5~9				0.07	0.06	0.15	0.25	0.19	0.29	0.42	1.04	0.93	0.84
10~14				0.06	0.09	0.11	0.19	0.14	0.39	0.40	1.13	0.88	0.90
15~19				0.04	0.09	0.12	0.14	0.15	0.34	0.41	2.10	0.80	0.92
20~24				0.06	0.09	0.08	0.18	0.15	0.30	0.32	2.31	1.00	1.23
25~29				0.05	0.09	0.12	0.15	0.10	0.25	0.31	2.05	0.92	1.18
30~34				0.09	0.11	0.15	0.11	0.11	0.26	0.36	1.66	0.81	1.13
35~39				0.08	0.10	0.14	0.08	0.11	0.21	0.26	0.94	0.87	1.20
40~44				0.06	0.12	0.16	0.12	0.12	0.34	0.31	0.94	0.89	1.08
45~49				0.14	0.17	0.17	0.18	0.12	0.39	0.37	1.06	1.14	1.13
50~54				0.15	0.19	0.37	0.29	0.25	0.50	0.59	1.25	1.21	1.33
55~59				0.27	0.38	0.63	0.59	0.39	0.84	0.76	1.46	1.69	1.74
60~64				0.44	0.64	0.82	0.80	0.67	1.49	1.32	2.03	2.43	2.31
65~69				0.71	1.24	1.51	1.24	1.17	2.70	2.76	3.70	3.95	3.61
70~74				1.42	2.12	2.19	2.45	2.18	4.98	5.80	6.94	7.60	6.94
75~79				3.10	4.58	5.05	4.14	4.13	10.84	11.82	14.42	14.70	13.67
80~84				6.86	9.01	9.96	10.46	8.71	21.92	24.10	27.93	27.45	27.30
85~89				13.21	19.24	17.76	17.06	17.08	38.09	41.88	45.67	46.85	46.91
90~94				22.98	31.37	29.50	29.60	30.90	58.38	62.78	64.95	68.38	66.47
95~99				22.33	38.06	48.75	43.88	48.63	72.97	75.11	79.50	80.36	80.80
100+									85.11	79.17	85.25	83.53	89.34

付表-6 要介護率(男女)

%	S53	S56	S59	S61	H1	H4	H7	H10	H13	H16	H19	H22	H25
	1978	1981	1984	1986	1989	1992	1995	1998	2001	2004	2007	2010	2013
0~4				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5~9				0.08	0.10	0.14	0.24	0.21	0.39	0.52	1.17	1.30	1.16
10~14				0.07	0.11	0.14	0.21	0.20	0.52	0.49	1.27	1.16	1.30
15~19				0.06	0.11	0.14	0.15	0.15	0.42	0.47	1.94	1.00	1.23
20~24				0.07	0.10	0.10	0.19	0.18	0.41	0.39	2.34	1.22	1.41
25~29				0.07	0.10	0.16	0.17	0.13	0.34	0.37	2.20	0.99	1.25
30~34				0.09	0.10	0.12	0.10	0.12	0.30	0.43	1.74	0.94	1.23
35~39				0.08	0.11	0.14	0.10	0.12	0.30	0.31	1.27	0.98	1.16
40~44				0.08	0.12	0.17	0.16	0.12	0.38	0.38	1.21	0.99	1.09
45~49				0.12	0.17	0.20	0.18	0.14	0.43	0.40	1.20	1.19	1.12
50~54				0.24	0.29	0.40	0.32	0.28	0.56	0.61	1.35	1.40	1.43
55~59				0.35	0.47	0.71	0.65	0.43	0.86	0.85	1.67	1.85	1.80
60~64				0.54	0.88	1.09	1.00	0.83	1.60	1.52	2.44	2.68	2.50
65~69				1.03	1.53	1.77	1.63	1.53	2.91	3.10	4.01	4.26	4.04
70~74				1.87	2.70	2.86	2.87	2.50	5.12	5.90	7.26	7.75	7.03
75~79				3.57	4.87	5.62	4.94	4.37	10.15	11.27	13.49	14.01	12.93
80~84				6.98	8.75	9.90	10.17	8.75	19.84	22.06	25.37	25.14	25.36
85~89				11.85	17.36	17.10	16.32	16.41	34.74	38.82	42.45	42.85	43.02
90~94				20.09	29.33	27.22	27.86	28.05	55.01	59.50	60.78	64.58	62.90
95~99				21.81	39.90	43.36	41.77	44.32	70.04	72.53	77.11	78.71	78.08
100+									83.61	83.56	82.19	82.08	87.58

付表-7 平均寿命、非寝たきり寿命、寝たきり期間、介護不要寿命、介護期間の推移

年	男					女					男女				
	平均 寿命	非寝た きり寿 命	寝たき り期間	介護不 要寿命	介護 期間	平均 寿命	非寝た きり寿 命	寝たき り期間	介護不 要寿命	介護 期間	平均 寿命	非寝た きり寿 命	寝たき り期間	介護不 要寿命	介護 期間
1978	72.95	72.31	0.64			78.20	77.35	0.86			75.63	74.88	0.75		
1981	73.79	73.13	0.66			79.15	78.25	0.89			76.53	75.75	0.78		
1984	74.58	73.85	0.73			80.24	79.12	1.12			77.48	76.56	0.92		
1986	75.25	74.88	0.37	74.30	0.94	80.95	80.51	0.44	79.50	1.45	78.18	77.78	0.41	76.98	1.21
1989	75.94	75.50	0.45	74.51	1.44	81.78	81.04	0.74	79.54	2.24	78.96	78.36	0.60	77.10	1.85
1992	76.11	75.31	0.80	75.08	1.03	82.27	80.99	1.28	80.72	1.55	79.28	78.23	1.04	77.98	1.29
1995	76.39	75.64	0.75	75.37	1.02	82.76	81.44	1.32	81.16	1.60	79.66	78.62	1.04	78.34	1.32
1998	77.20	76.49	0.71	76.21	0.99	83.92	82.57	1.34	82.16	1.76	80.65	79.61	1.04	79.26	1.38
2001	78.01	77.35	0.66	75.28	2.07	84.86	83.45	1.41	79.35	4.10	81.53	80.49	1.05	77.36	3.13
2004	78.62	77.90	0.73	75.48	2.42	85.52	84.12	1.40	79.42	4.70	82.17	81.08	1.08	77.46	3.62
2007	79.14	78.40	0.74	74.95	3.45	85.92	84.38	1.54	78.44	5.94	82.61	81.46	1.16	76.70	4.75
2010	79.54	78.80	0.74	75.40	3.41	86.28	84.80	1.49	78.82	5.98	82.99	81.85	1.13	77.11	4.75
2013	80.21	79.49	0.72	75.98	3.51	86.61	85.22	1.39	79.19	6.03					